

令和3年度 第5次地域福祉活動計画 実施状況の推進評価委員会評価(答申書)

事務局評価

基本目標1 人づくり

施策(1) 地域活動に参画する担い手の養成

目指す5年後の姿

- 次世代を担う子どもたちが福祉に触れて、福祉に関心をもてる
- 福祉活動に参画する人が増える
- 福祉学習講座を受講した人が講座の担い手になれる
- 障害のある人もない人も活動できる場がある

評価基準は、次の4段階

- 「A」 計画通り実施した(80%以上の達成)
- 「B」 概ね計画通り実施した(60%以上)
- 「C」 計画通り実施できていない(40%以上)
- 「D」 未実施、実施できなかった(40%以下)

数値目標

事業名称	評価指標	令和元年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値 令和7年度
寺子屋事業	ボランティア参加人数	115人	125名				130人
	子ども、保護者の参加人数	159人	347人				180人
ふれあい出前講座	講座開催数	29回	12回				35回
	参加者数	808人	203人				1,050人

事務局評価

	担当評価 4段階評価(A~D)						事務局評価 4段階評価 (A~D)	評価の理由
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)		
	学校での福祉教育の実施	寺子屋事業の実施	ボランティアの養成	ふれあい出前講座の開催	介護の就業につなげる講座	ふくし標語、ふくし作文の募集		
令和3年度	A	A	B	B	A	B	A	・コロナ禍の影響がある中、寺子屋事業については参加者数が大幅に増加となった。 ・出前講座等についても、コロナ前には及ばないものの工夫をしながら下半期は開催を増やしつつある。 ・介護に関する入門的研修が足柄上地区1市5町の就業希望者を対象に実施することができた。

施策(2) NPO・ボランティア活動等の推進

目指す5年後の姿

- ボランティアセンターの存在が住民に知られている
- ボランティア活動が住民に見える存在になっている
- ボランティア活動や地域活動に参加する人が増える

数値目標

事業名称	評価指標	令和元年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値 令和7年度
ボランティア	ボランティア登録人数	279人 内、グループ所属109名、個人170名	285人内、グループ所属109名、個人176名				令和3年3月末時点と比べて、30名増加
	ボランティア活動件数	302件	205件				350件
	ボランティア活動人数	601人	289人				650人

事務局評価

	担当評価				事務局評価 (A~D)	評価の理由
	(1)	(2)	(3)	(4)		
	ボランティアセンターの機能強化	ボランティア活動に関する広報、周知活動	活動資金(各種団体への助成等)、寄付	足柄上地区社協連絡会~足柄上地区、広域連携~		
令和3年度	B	A	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、活動件数、活動人数は減少してしまった。 ・かわら版では、コロナ禍に影響により地域行事が少ない分、これまで掲載してこなかった個人ボラや地域行事を掲載する等の工夫ができた。 ・ボランティア活動への勧誘については、かわら版の配架方法や周知方法等、より工夫が必要である。

施策(3) 地域におけるネットワークの強化

目指す5年後の姿

- 地域にある団体がネットワークをもち、互いに協力しながら活動できる
- 地域にある団体がやりがいをもち、団体役員の負担感が軽減される
- 社会福祉施設、事業所同士の連携を模索し、災害時の活動、住民への啓発活動、職員研修等を一緒に行える
- 地域にある福祉事業所同士が活動できる人材バンクがある

数値目標

事業名称	評価指標	令和元年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値 令和7年度
地域の状況把握	地域診断の実施 毎年1か所ずつ、自治会ごとの調査を実施 ※社協だけではなく、地域住民も一緒に参加して実施する	未実施	1自治会 (飯沢)				毎年1か所 ずつ実施

事務局評価

	担当評価					事務局評価	評価の理由
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
	地域診断の実施	社会福祉施設、事業所と連携できる内容の模索、検討	福祉関係の仕事に携わる人のネットワーク構築 ～介護職の連携～	福祉関係の仕事に携わる人のネットワーク構築 ～足柄上地区権利擁護ネットワーク連絡会の開催継続～	社会福祉大会の開催	4段階評価 (A～D)	
令和3年度	A	D	A	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域診断については飯沢自治会でモデル的に実施。住民と話し合える新しい手法をもつことができた。 ・介護職等のネットワーク構築のための勉強会等は、コロナ禍で普及したZoomを利用し「双方向」のやり取りができる手法を取り入れる等の工夫ができた ・コロナ禍の影響により、施設や事業所への聞き取りは行えなかった。

推進評価委員会評価

基本目標1 人づくり

令和3年度 達成度

評価基準は、次の4段階

「A」 計画通り実施した(80%以上の達成)

「B」 概ね計画通り実施した(60%以上)

「C」 計画通り実施できていない(40%以上)

施策	施策内容	委員会評価	委員会評価の理由
施策(1)	地域活動に参画する担い手の養成	A	○寺子屋事業は、参加人数が増え、多くの講師、ボランティアが参画している。将来の担い手となる子どもたちが福祉に触れる良い機会になっている。福祉への関心が高まることが期待できる。 ○寺子屋事業には福祉関係以外のボランティア団体にも参画を呼び掛けるとよい。
施策(2)	NPO・ボランティア活動等の推進	B	○コロナ禍で活動実績は、少なくなっているが、その中で工夫して活動を実施していることを評価する。 ○ホームページやSNSを活用して、今後も積極的な情報発信を望む。
施策(3)	地域におけるネットワークの強化	B	○ネットワークの強化には、互いに連携する目的を明確にすることがポイントである。目的を再確認し、連携を構築する必要がある。

総合評価

○コロナ禍の影響により、これまで通りの方法で行えない活動が多くある中、コロナ禍でも十分に活動成果があった事業もあり、コロナ禍だからこそ、工夫が生まれた取り組みも見受けられる。コロナ禍における事業の創意・工夫の努力を評価する。今後も、事業の目的を踏まえ、活動の方向性や必要性について継続的に検討を進めていただきたい。

○地域活動に参加する担い手を増やすためには、活動の見える化が重要であり、活動している「人」に着目した広報をすることが有効と考えられる。子どもから高齢者まで幅広い層に関心を持っていただくために、ホームページや広報誌等で「人」に焦点を当て紹介するなどの工夫を凝らし、担い手を着実に養成していただきたい。

○寺子屋事業は、企画や実施方法等良く工夫されており、引き続き充実に向けた取り組みを期待するところである。今後、戦略的な広報を展開し協力ボランティアの充実を図り、より一層の市民協働を進めていただきたい。